

経営発達支援計画に基づく

可児商工会議所 第6回 経済動向調査（平成29年7～9月分）

可児商工会議所では、中小企業庁より認定を受けた「経営発達支援計画」に基づき、業種別の定期調査として「売上」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「業況」、「資金繰り」の項目等について小規模事業者を対象とした経済動向調査を実施いたしました。

今回、第6回目として平成29年7月から9月の状況を調査した結果を報告させていただきます。

【総評】

「製造業は絶好調であるが、人材、人員不足は深刻な状況」

前回の調査では、建設業の好調ぶりが目立ちましたが、今回の調査では製造業の好調ぶりが印象に残りました。現状についても、今後の先行きについても、全体平均の2倍近い事業者の方が、「売上は増加している」、「今後も増加する」と回答されています。採算性についても同様に「増加する」と回答している事業者がほとんどです。業況については、少し厳しめに見ているようですが、市内の製造業は、総じて好調であり、今後もこうした状況がしばらく続くと考えているようです。しかし、その一方で、従業員の過不足については、すべての製造業の事業者が「不足している」と回答しています。個々の事業者では、いろいろな方法で採用活動をしているようですが、「良い人材が採用できない」、「採用しても長く続かない」などの問題を抱えているようです。「受注はあるが、従業員が確保できないために仕事を断った」というコメントもあり、製造業における人員、人材不足は特に深刻な状況が伺えます。他の業種でも、パートやアルバイトの採用も含め、従業員確保には苦勞している様子です。こうした状況は機会損失になるとともに、市内事業者の存続にも関わる事態になります。市内の方が市内の企業で働けることは、市にとっても、市民にとっても、企業にとってもよい影響をもたらします。雇用はハローワーク頼みではなく、高校生から定年退職された方の再就職までを含め、市をあげて働く場の情報提供やマッチングする機会を提供していく必要があると感じています。

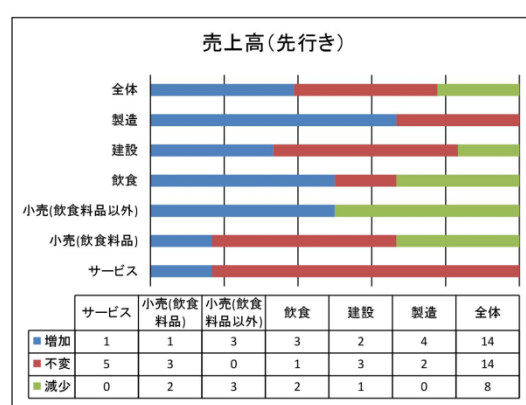
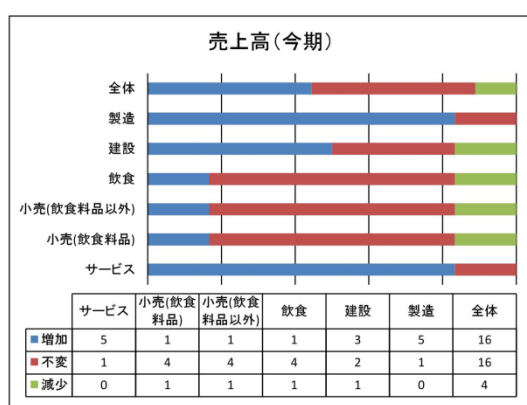
他に気になった点としては、業況が厳しい業種の中でも、着実に売上を増加させている事業者があったことです。こうした事業者の共通点は、新たな取り組みをしています。お客様向けに新しいイベントを開催し、新たな商品やサービスについて知ってもらうなど、お客様との接点づくりをしているところや、他の事業者などと連携や協力を行い、新たな価値を提供するなどの取り組みが見られました。

全体を見ても売上が増加している事業者ほど、コメントを書いているので様子がよく分かります。こうした状況から推察できることとしては、自社の振り返りがきちんと出来ているところほど、これから何をすべきかを考え行動していることが伺えます。どんな状況においても、常に経営を続けている限りは、これからのことを考え行動する、

変化することが売上向上には不可欠であると思います。

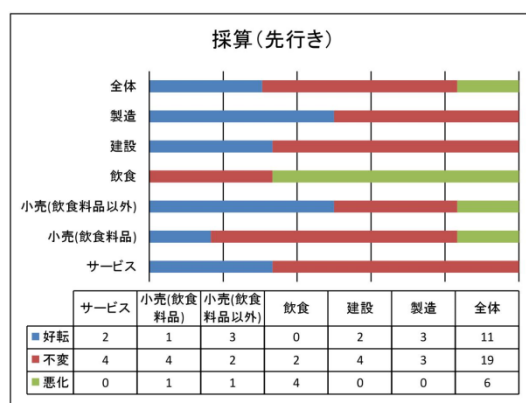
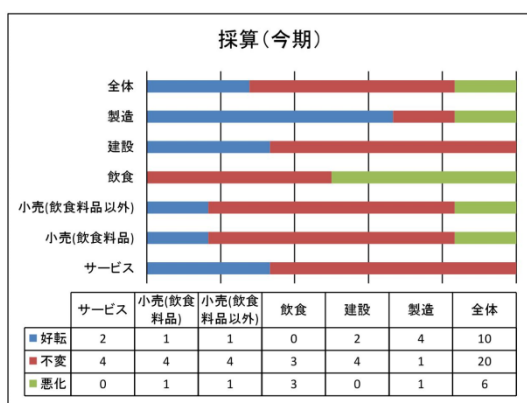
【売上高】

売上を見ると、製造業、建設業、サービス業が好調であることが分かります。特に製造業は絶好調であり、今後の見通しも明るいようです。今後については、飲食業や小売業（飲食料品以外）で復調していく様子が見られますが、これまで好調だったサービス業は年末にかけて落ち込んでいくと考えているようです。



【採算性】

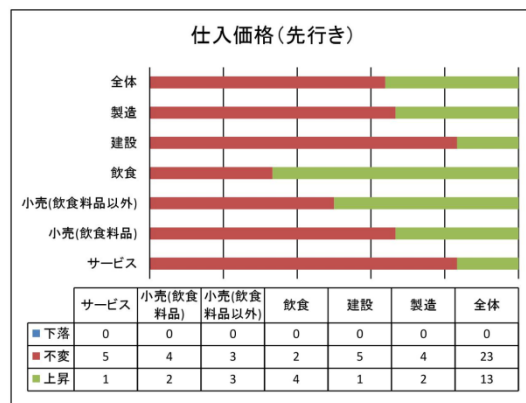
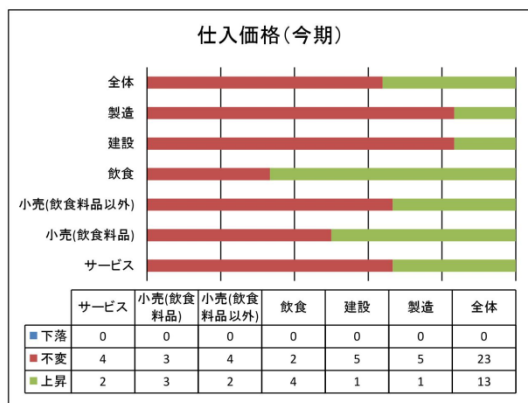
採算性については、売上高の状況とほぼ同じ状況ですが、サービス業については採算性が好転している割合は、売上増加に比べると随分低いようです。その他、飲食業や小売業でも総じて低い状況です。こうした事業者は一般消費者を対象とした事業者が多く、単価が低かったり、価格競争の影響を受けていることが考えられます。



【仕入単価】

仕入価格が今後下落すると回答している企業はなく、すべての企業が、「不変」もしくは

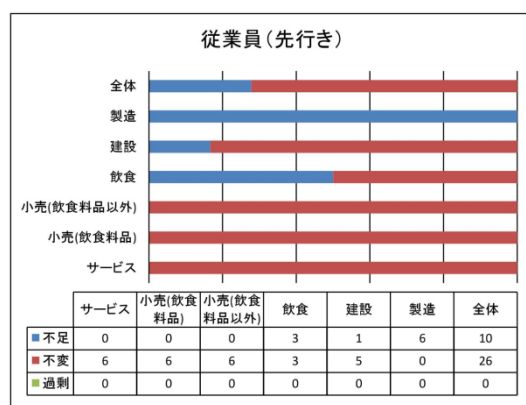
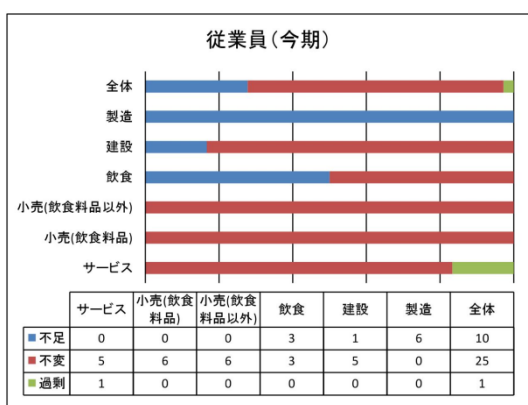
「上昇している」と回答しています。特に飲食業で「上昇している」と回答している事業者が多く、天候不順により、野菜等の仕入れ価格の高騰などが影響していると思われます。



【従業員の過不足】

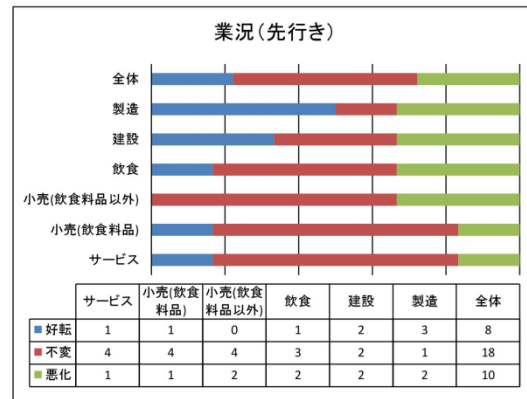
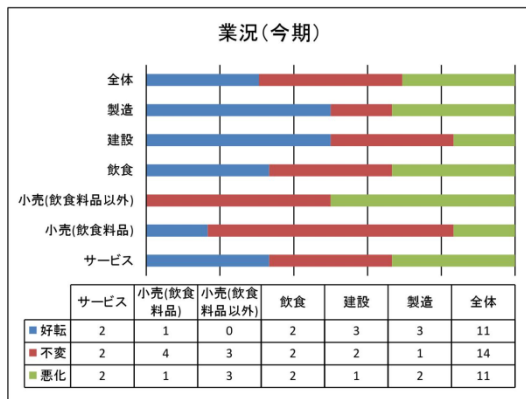
従業員の過不足については、製造業、建設業、飲食業で不足感を感じている事業者が多いです。その中でも製造業ではすべての事業者が「不足」と回答しており、深刻な状況と言えます。飲食業においても、年末にかけて繁忙期を迎えるにあたり、現状の不足状況が今後も続くと考えているようです。サービスの低下により、顧客満足の低下は心配されます。

小売業やサービス業においては、従業員が「不足している」と回答した事業者は皆無でした。



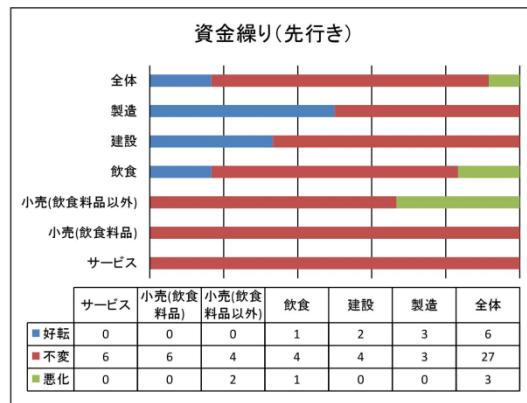
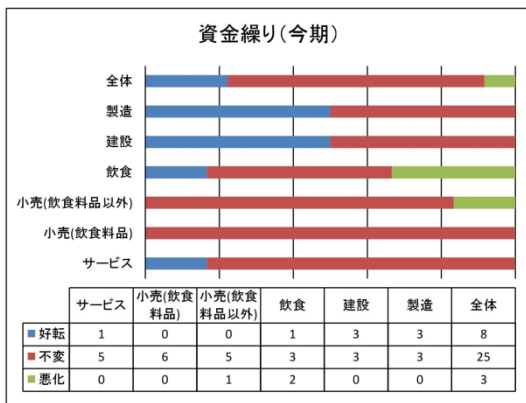
【業況】

業況については、売上や採算性の好調ぶりが見られません。業界全体はそれほど楽観視できない中で、可児市内における事業者においては、順調な状況が続いているようです。先行きについては、どの業種の方も「悪化する」と心配している経営者が20%~30%くらい存在します。



【資金繰り】

資金繰りについては、売上高や採算性と同じく、製造業、建設業、サービス業で好転しています。また今後については飲食業の一部で好転していくと考えているようです。年末にかけて来店客や宴会客などの需要が高まっていくことが伺えます。



※調査対象事業者：可児市内小規模事業者（36事業者）

※業種：製造業、建設業、飲食業、小売業（飲食料品以外）、サービス業、小売業（飲食料品）

※総評：コンサルティング・シスト 代表 中小企業診断士 伊藤慎悟 氏